

◇ 新刊紹介

武生古文書覚 第二集 武生市古文書を讀
会編集発行 昭和五九年三月 六八頁

昭和五七年二月に第一集を發行してから二
年間の間に読み終えた古文書の中から八点選
んでいる。上段に原文の複写、下段に解説文
を載せて、対比しやすいようにしてあり、各
文書のあとに、会員が分担して簡単な解説を
つけている。

若越郷土研究 二九卷二号

金津姫川吟社と雨夜塚 土屋久雄編著

昭和五九年二月 金津町教育委員会刊

金津町総持寺境内の雨夜塚（芭蕉翁之塔）

は、寛延二年（一七四九）九月、金津の俳人坂野我六によって建てられたもので、建塔以来いくたびか移転を繰り返したが、金津の俳句仲間の結社で著名な姫川吟社を象徴する貴重な文化財である。

本書では、まず芭蕉が門人曾良を伴って元禄二年（一六八九）八月越前に入り、金津で俄か雨にあつて総持寺門前の大門茶屋で雨宿りをした事情から述べる。ついで姫川吟社が越前ではいち早く開けた歴史性をもつものとして、その始祖願泉寺東也の人間像を描く。そして同吟社の発展を△宝林寺時代△総持寺時代△正瑞寺時代△再び総持寺へ、と区分して具体的動向をさわめて興味ぶかくしている。

昨春雨夜塚が正瑞寺から総持寺境内に移されて記念式典を行ったが、これは県内における二〇数基の芭蕉塚のなかでも福井市月見町にある桜塚につぐ古いもので、そのまわりに二〇ほどの連塔句碑のあるのは、まさに圧巻

だといえる。それとともに歴史的にみても金津町の庶民文化の高さを堂々示すものである。

編著者の土屋氏は、「こうした名所でありながら一般には知る人も少く、地元の人びとからさえ忘れ去られようとしている。この小誌はその由来や意義を明らかにしたもので、これによって人びとが古い文化遺産への関心を深め、ふるさとづくりの一助にもなるならば誠に幸いである」と力説するが、たしかに俳諧の地域文化を代表するものであるだけに、ぜひ一読をおすすめする。

（三上一夫記）